

私は現在製造業の情報システム部門に所属しています。ユーザー企業の情報システム部の方で合格した方はまだ数少ないのではないのでしょうか。私はユーザー企業にこそビジネスアナリストを育成すべきだと考えており、これが CCBA®の受験動機となっています。

学習方法などはすでに他の合格者の方々から共有されていますので、ここでは志を同じにしている方々へのご参考と、ビジネスアナリストの更なる普及にお役に立てればとの思いから、受験動機について最初にご紹介させていただきます。

受験動機 ～IT 部門自らが企業競争力に寄与する戦略的な部門へ変化する必要がある～

IT 活用の変遷を辿ってみます。汎用機が誕生してから各企業はこぞって情報システム部門を自社に設置しました。情報システム部門誕生のルーツです。当時は人による作業を IT 化することで省人化・省力化することが期待された時代でした。しかしながら現在では情報システム部門への期待は以前とは全くことなるものになっています。それは現在も続くパラダイムシフトとも言える IT 革新が次々に押し寄せたからではないのでしょうか。90 年代の ERP に代表されるパッケージが台頭し当時は情報システム部門の仕事がなくなるとまで言われたものです。オープン化の波でそれまで主流だった汎用機は今やレガシーと呼ばれるようになりました。同時期にインターネットが登場し、Web が爆発的に普及し単純にアプリの Web 化や WEB での商品情報発信にとどまらず、Web で新たなビジネスモデルが創出されるようになり、ビジネス戦略上 Web は欠かせない存在になりました。2000 年代に入ると戦略的 IT 企画の必要性が加速します。例えば 3D-CAD や CAE の飛躍的な進化は設計業務を変革し、SCM や CRM/SFA などの戦略論に基づくパッケージ導入はビジネスプロセス革新を伴います。いずれも競争力の差異化に繋がるようになり、これらの導入にはより専門的なスキルが必要となっています。プラットフォームの側面では最近の潮流であるクラウドコンピューティングは今までにない形態での様々なアプリケーションがサービスとして提供され、投資検討や従来の保守スタイルに大きな変化をもたらしています。コンプライアンスの側面では SOX 法や ISM/PIM、IFRS といった新たな法規制遵守への IT 対応も必須になりました。経済的側面では企業のグローバル化と M&A が企業のオペレーションモデル自体に変革をもたらし、IT はインフラとして必然的にオペレーションモデル変革への追従を求められます。

つまり IT がビジネスオペレーションに絶対不可欠なものになったうえに企業競争力に直結するようになったのです。これには戦略と統合した IT 企画をビジネスオペレーションを遂行するエンドユーザー部門と連帯して推進することが不可欠です。ビジネスを実行する部門と情報システム部門は機能的に分離されている組織となっていることが多いと思いますが、ビジネスを理解できないシステム部門は付加価値を創出できない時代になったのです。これが情報シ

システム部門の役割に起きたパラダイムシフトです。そしてこの領域は広がり続けています。

情報システム部門には IT 部門の立場から業務プロセスの改革、組織改革のリーダーや社員の業務スキル改革をサポートできる力が求められています。そのような役割をこなせる人材として、ビジネスアナリストがあります。外部コンサルやベンダーが顧客ビジネスの理解、業務運用と既存ソリューションに関する理解を深めるには限界があります。自社ビジネスに常に寄り添っているユーザー企業の情報システム部門こそがビジネスに対する深い理解を持ち得るのです。自社ビジネスの要求定義に責任を持ち、目的と目標を達成する為のソリューションを定義・実行し、ビジネスの付加価値向上に貢献する。IT 部門自らが企業競争力に寄与する戦略的な部門へ変化する必要があります。ビジネスアナリス機能を合わせもつ部門へ変化するうえで、BABOK®はの1つのグローバルなフレームワークであり、マイルストーンです。BABOK®を活用することでより効果的にビジネスアナリス機能を組織に実装できるのです。

出願

個人受験者である私には最初は鬼門に感じましたが大きなつまずきはありませんでした。IIBA 日本支部のホームページに認定ハンドブックがあり出願と試験の流れが丁寧に記述されています。このとおりに進めれば受験まで到達可能です。事前に IIBA 日本支部で定期開催されている「CCBA®&CBAP®説明会」(六本木 金曜日 15:00-16:30)に出席していたこともハンドブックの早い理解に繋がりました。私の場合は受験資格の取得まで約4ヶ月掛かりました。教育実績と業務の両立を行う必要があったからです。郵便為替の購入や EMS 便での郵送も平日に郵便局へ行く必要がありました。推薦人の2名にも丁寧な事前説明や準備が必要でした。個人受験者の弱いところだと思いますが受験勉強と並行しました。こうすることで克服できると思います。

受験勉強

日本で最初の EEP プロバイダーの KB マネジメント社の講習を受講しました。代表の清水さんには良くて頂き、個人受験者の私には大変助かりました。参考書は「ビジネスアナリス知識体系ガイド Version2.0」「CBAP/CCBA ビジネスアナリス認定スタディガイド(上・下)」「やさしくわかる BABOK」「Business Analysis 教科書 BABOK® CCBA®』の4種類です。最初のうちは BABOK®の基本構造の理解に手間取りました。各 TASK の繋がりを厳密に捉えようとし過ぎた為です。BA アプローチやプロジェクトとイニシアティブの種類によってはやる必要のない TASK があり、TASK の順番や実行回数、BA の深さも適切に変化させなければならぬという柔軟な理解がまず必要です。必要に応じて取り出して使う TASK が BABOK®固有の6つの知識体系というツール BOX に分類されて詰め込められているというイメージです。

BA 知識体系ガイドに書かれていることと実際の BA 作業を過去の自身の経験と照らし合わせて具体的にイメージし、整理・理解していくという学習スタイルになりましたので思いのほか

時間が掛かりました。経験で習得してきたことが確信に変わったり、不足していた知識を補充したり、経験からの回答が BABOK® 的には最適解ではなく知識の入れ替えが必要であったりしました。問題例をベースに BA 知識体系ガイドを最低3回読みこなすことをお奨めします。深い理解に到達し、この確信が腹落ちして身に沁みこんでいく感覚を体験できると思います。

受験 CBT 試験

テンプル大学 麻布校舎が受験会場。受験日が日曜日だったためか、正門が開いておらず、案内に沿って裏門へ回りました。エレベータで上がった3F が会場でしたが、受付には受験科目を示す張り紙などはなく、会計関連試験など他の受験科目との共通受付になっています。受付後は会場に直ぐに入るのではなく、しばらく受け付け内の椅子で待たされた後に会場まで案内されます。腕時計や携帯、財布などは鞆の中に入れておく必要がありますが、耳栓は使用が許可されます。CBT 端末では最初に英語での受験に関する注意事項が表示されますが全てに同意します。試験監督官がおり試験要領で不明な点は質問できます。

試験問題は参考書との比較で短文が多く、BA のシュチエーションが想定しづらいものが多かったと感じましたが、回答選択を見ることでシュチエーションが理解できたものもありました。BABOK® に出てこない言葉もあり、100% 自身を持って回答できたのは7~8割ほどです。ですがこれは多くの受験者の方々が同様のことを述べられていますので、このような試験問題なのだと思います。後で見直したい回答はチェックをつけておくことでこの回答にジャンプできます。この CBT 画面操作は Castle Worldwide 社からの Scheduling Confirmation Notice にフリーサンプルテストの URL があり、ここで確認が可能です。実際にこの機能が活躍し、回答の見直しを効率良く行えました。回答終了の Submit ボタンを押すと試験が終了し画面に「Congratulations！」が表示され合格したことが判りました。約2週間後に IIBA から合格通知メールが届き、約1.5か月後に認定証とバッジがカナダの IIBA 本部から郵送されてきました。

ビジネスアナリシスに興味を持っている方へ

私は 2012 年 3 月末まではソニーグループ IS の一員でした。ソニーの情報システム部門のミッションステートメントにもビジネス理解と技術をコアコンピュタンスに改革に取り組み、新たな価値の創造に挑戦するとありました。ビジネスアナリシスに興味を持っておられる方は是非 BABOK® を手にしてみてください。戦略的プロジェクトを効果的にリードし、目標を達成していく活動を各自がそれぞれ積み上げていくことで、牽いては日本全体の復権に寄与するものと信じています。

多くの方にビジネスアナリストとして活躍頂くことで、組織貢献と社会貢献のみならずビジネスアナリストの付加価値も高めることができます。もっと話を聞きたいなどありましたらメールを頂けましたら幸いです。(hoshimas@gmail.com)